

私はこの夏休み、足を怪我して入院した。そこでひしひしと感じたのが、「家族皆で食べるご飯の温かさ」だ。入院は約一カ月で、そう長くはなかったのだが、入院して三日ほどたったときには、すでに家に帰りたくなっていた。家に帰りたくなかった理由は様々だ。ペットの犬と猫に会いたい、家のソファでごろごろしたい、時間を気にせずテレビをみたいなど、色々ある。だがしかし、一番の理由は、家のご飯が食べたい、であった。入院する前には、あまりそう感じることも帰れない日々が続くと、だんだん家が恋しくなっていた。メールで家の写真やご飯の写真が届くと、あまりの羨ましさに、泣きたくなったほどだ。

私が、家に帰って、皆でご飯を食べたいと思えるのは、これまでずっと家で温かく美味しいご飯を食べさせてもらっていたからだと思う。家に帰り、一カ月ぶりに家のご飯を食べた。そのときは、感動と懐かしさに胸がいっぱいになった。恥ずかしい話だが、少し涙ぐんでしまったと思う。私はこの温かさを忘れないように生きていきたいと思う。

少し話が変わるが、私の祖父母は、お米を作っている。日向市東郷町の田畑で、野菜なども作っている。私は小さい頃から、母の実家である日向市に帰ったときには、祖父母の野菜や果物の収穫について聞いていた。祖父母の作る作物は、どれも綺麗でみずみずしく、おいしかった。お米の収穫について聞いたことは、残念ながらない。しかし私は、祖父母の作る作物の中で一番、お米が好きだった。毎年一回、祖父母からお米が送られてくる。そのお米は明らかに他のお米とは違って、私の中で特別なものだった。祖父母の作ったお米と、普通のお米の味は全く違い、私は曾父母の作ったお米と普通のお米を食べて、どちらがどちらかを判別することができると思う。そのくらいおいしいのだ。それはおそらく、新鮮さや育て方の違いによるものでもあると思うが、やはり一番は、愛情というものであると私は考える。店に売っている普通のお米にももちろん、愛情はこもっていると思う。しかし、祖父母の作お米には、もっと愛情がこもっていると思う。しかし、祖父母の作お米には、もっと愛情がこもっていると思う。祖父母は、作ったお米を売っていない。自分たちで食べたりの、私たちに送ってくれたりしているそう。そのお米にこめられた愛情は、私たちに向いているものでもあるのだと思う。だからこそおいしく、特別なお米ができるのではないだろうか。そしてそのお米も、一人で食べてはおいしさが半減してしまう。家族皆で食べるからこそおいしい。私の父は、仕事から帰ってくる時間が夜遅いので、あまりいっしょにご飯を食べることがない。仕事がない日はいっしょに食べることができるが、その日も少ない。そのせいもあって、家族全員で囲む食卓は特別感がある。

そして、家族で食卓を囲むときには、その日にあったことを話す。学校であったことや家での出来事など、様々だ。小さい頃は、食事中にテレビを見たいという気持ちが強かった。しかし中学生になった今、皆でご飯を食べるときには、テレビを消してお話をしたいと思うようになった。その方が、母の作ってくれたご飯を味わって食べることができると、楽しいからだ。

家族との時間をどう思うかは、人それぞれだと思う。私は、とても大切に温かいものだと思っている。自分が成長していくにつれてそう思うようになった。家族との時間の中で、一番安心できる時間は、やはりご飯の時間である。母の作る美味しいご飯を食べながら、話をする。それだけで、日々の不満やストレスが消えていく気がするのだ。このように感じることをできるのは、家族のおかげだと思う。なので私はこれから、家族との関係や共に過ごす時間を大事にしていきたいと思う。